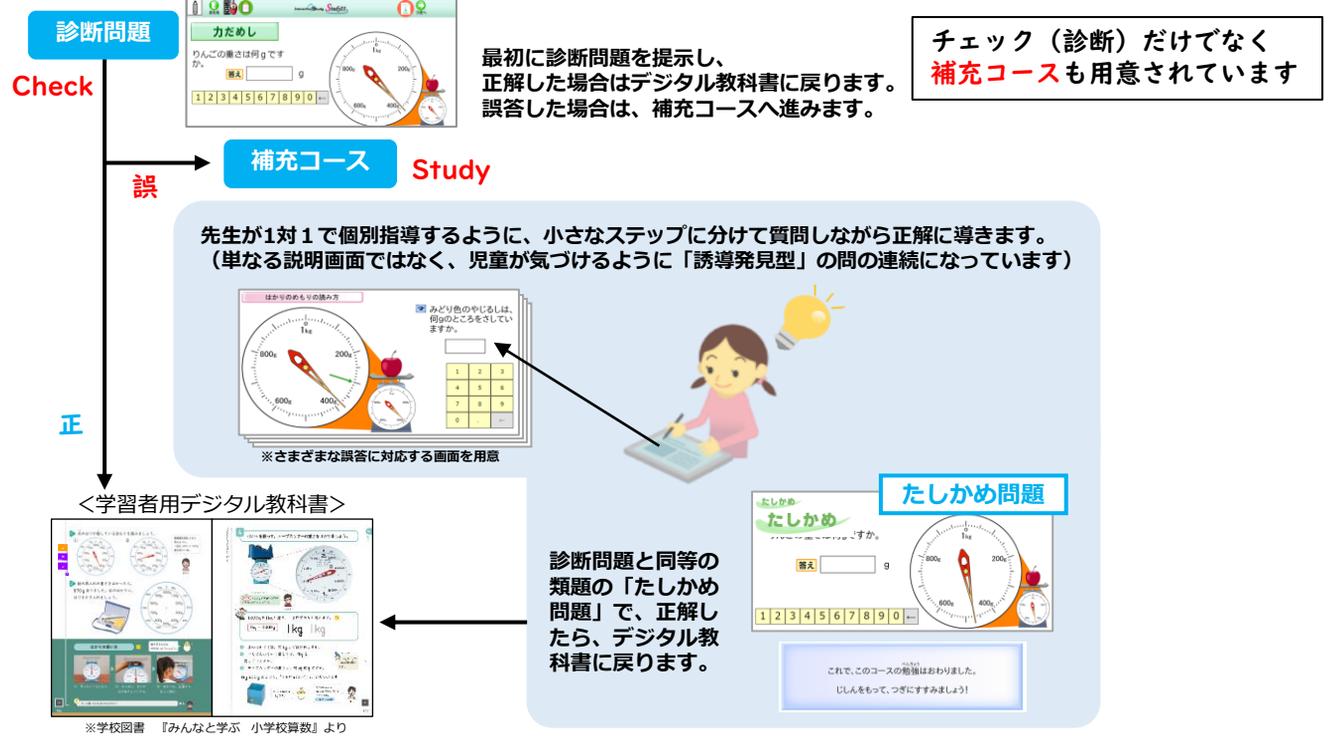


# 「チェック&スタディ」のご紹介

普段使っている教科書に応じた「診断補充型のデジタル教材」で個別最適な学びを！

授業で学習した内容を、すべての児童が理解できたか診断問題でチェック。  
補充が必要な児童は、先生が1対1で個別指導するように、スモールステップで質問しながら正解に導きます。単なる説明ではなく、児童が自ら気づけるような「誘導発見型の発問」で補充を行います。補充の最後には、診断問題の類題の「たしかめ問題」が出題され、正解できたら次の学習に進みます。正解できた事で、全員が自信を持って次の学習に進めます。誰一人取り残すことのない学びを支援します。



## 授業中にチェック&スタディ！ 活用パターン

### パターン1 みんなでスタディ（チェック&スタディ）

5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分	60分
25ページ	26ページ	27ページ	28ページ	29ページ	30ページ	31ページ	32ページ	33ページ	34ページ	35ページ	36ページ

インタラクティブスタディの「みんなでスタディ」から「チェック&スタディ」を選択すると、使用している教科書に準拠した並びで、単元が一覧表示。学習している単元を選択すると、診断問題（旗）の一覧が表示。適切なタイミングで旗を選択し、診断問題でチェック。この方法の他、次の2～4のパターンで利用できます。

各自治体で採択された教科書に準拠した単元の並びに変更し、ご提供します。

### パターン2 Classroom、Teamsによる活用



ClassroomやTeamsの課題に診断補充型教材のURLを入力し、配信します。

児童がそのURLをクリックすると、教材が開くように設定しておくことで、診断補充型教材が開きます。

### パターン3 専用Webサイトから活用



自治体等が作成する専用Webサイトにリンクボタンを設定します。

旗（リンクボタン）をクリックすると、その内容に適した診断補充型教材が開きます。

### パターン4 デジタル教科書の連携による活用



デジタル教科書にあらかじめリンクボタンが埋め込まれています。

埋め込まれた旗（リンクボタン）をクリックすると、その内容に適した診断補充型教材が開きます。

※スタディシリーズは、故・中山和彦、東原義訓、余田義彦、山野井一夫 各先生の教育におけるコンピューター利用の研究・実践成果を盛り込み、シャープマーケティングジャパン株式会社が先生方と共同で開発した学校教育用ソフトウェアです。

# 正誤状況を把握し、必要な個別指導を

■先生は各児童が、ここまでの内容を理解しているか一目でわかります。

旗番号をクリックすると補充問題の正誤が表示されます。

「ここまでの内容を、みんな理解してくれたかな? 理解できていない子どもは誰かな?」

「〇番さんと〇くんは補充コースでわかるようになったみたいだな。」

診断問題の1回目の回答で正答し、教科書にもとって、次の旗に進んだ。授業中の先生の指導で理解できている。

診断問題を2回誤答したため補充コースに進み、補充コースの最後の確認テストまでは進んでいない。

診断問題で誤答したため補充コースに進み、補充コースの最後の確認テストでは、1回目 または、2回目の回答で正解した。授業中の先生の指導では理解できていなかったが、診断・補充教材で理解できた。

誰が理解できていて、誰がどのような間違いをしているのかすぐに分かります。補充コースで救われたかどうかも分かります。

◆理解できなかった児童は補充コースに進みます。理解できた児童には、先生が、個々の児童にあった発展課題や思考力課題を準備することで、全員に個別最適な学びの場を保證できます。

■出題された問題と児童の回答を表示できます。

児童名

正答: 98.7  
5年2組25番さんの回答:  
・2021年02月04日12:01:56 (1回目) 047秒 [Z]: 88.7  
・2021年02月04日12:02:21 (2回目) 026秒 [C]: 98.7

正誤マークをクリックすると、出題された問題とその学習者の回答や応答時間を見ることができます。

画面名をクリックすると、出題された問題とその問題のクラスの正答率や平均応答時間、回答内容を見ることができます。

画面名をクリックすると、出題された問題とその問題のクラスの正答率や平均応答時間、回答内容を見ることができます。

# 補充コースで救われた児童の学び

■診断テストで正解できなかった児童が補充コースでどのように学習しているか見ることができます。

「〇番さんは、まだ理解できていないみたいだが、ずっと正解だからしばらく見守ってよう!」

補充コースに進んで、補充コースの最後の確認テストでは、2回目の回答で正解できたなあ。

補充コースの正誤表が表示されます。診断問題で正解できなかった児童が、補充コースでうまく学べているか、どこまで進んでいるか、リアルタイムに知る事ができます。

◆先生は、補充コースの児童の様子を観察し、励まし、必要な声掛け(一緒に画面を読むなど)をすることで、児童が中断せず最後まで学習を進めることがポイントです。児童は「たしかめ問題」まで正解できたことで自信につながり、次の学習に取り組むことができます。

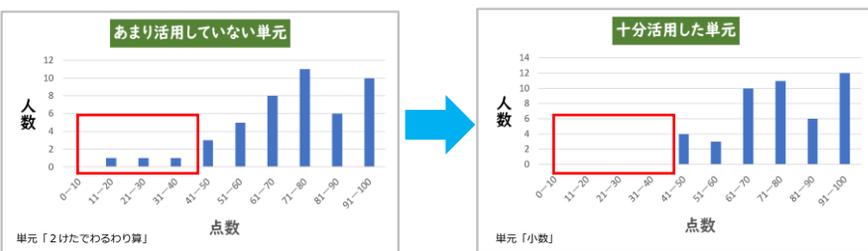
## 診断補充問題の種類

旗の種類には、「基礎問題」、「類似・発展問題」の他に、「単元まとめ」が用意されています。基礎問題に正解した児童が、より発展的な問題に取り組んだり、テストやチャレンジ問題に取り組むことができます。

- オレンジ色の旗** 【基礎問題】 45分の中で、確実に理解すべき基礎的課題  
スモールステップの誘導発見型の補充
- 紫色の旗** 【類似・発展問題】 教科書の問題の類似問題  
スモールステップの誘導発見型の補充
- ピンク色の旗** 【類似・発展問題】 教科書の問題の類似問題  
解説と再チャレンジによる補充
- 練習の旗** 【練習問題】 単元全体にわたる練習問題
- テストの旗** 【テスト】 5問からなる単元テスト
- チャレンジの旗** 【チャレンジ問題】 文章題や応用問題など発展的な課題

## 活用による学習効果

ある小学校 4年生のチェック&スタディ活用による学習効果



※グラフは渋谷区教育委員会のご協力により、実データを元に作成しました。

**低位層の児童に注目!**  
チェック&スタディをあまり活用していない単元と、十分に活用した単元では、理解度に大きな差がみられます。十分に活用した単元では、低位層の児童はほとんどいなくなり、誰一人取り残さない授業が実現しています。